

## Chapter1 The selection of a Research Design(pp.1-21)

(番号は適宜つけたもの)

### 1. 概要

この章では研究を計画する際に質的、量的、もしくは混合した実験デザインのどれを選択するかの手助けとして、これらを構成する要素であり、大きな影響を及ぼしている哲学的世界観、調査ストラテジー、研究方法を説明している。またそれだけでなく、研究問題や研究者個人の経験、観衆もまた実験デザインに影響を及ぼしている要因とし、解説されている。

### 2. 3つの研究方法

質的研究と量的研究ははっきりと分けて説明できるものではないとし、質的、量的、ミックス法の特徴を述べている。

#### ■ 質的方法

集団や個人の行動、質問の回答をデータとし集め、社会や人間の問題を理解、研究しようとする研究方法。インタビューや自由回答の質問を扱う。

#### ■ 量的方法

テストを行い、数値を統計などで分析することで数値間の関係を調べる研究方法。選択式の質問を扱う

#### ■ ミックス法

質的・量的調査方法を組み合わせ、関連付けたもの。データを集める、分析するのはより簡単ではない。それぞれを組み合わせたこの手法は単体で扱う手法よりも優れているとされている。

### 3. 研究デザインの枠組み

研究デザインの3つの主な枠組みとして哲学的世界観(philosophical Worldviews)と調査ストラテジーの選択(Selected Strategies of Inquiry)、研究方法(Research Methods)の3つの要素が相互に作用しあう関係となっている。

#### ① 哲学的世界観

哲学的考えは研究のなかに混ざりはっきりと区別はされていないが、研究の実行に影響を及ぼしている。区別できれば、何故我々が質的、量的調査法を選択するかを説明する手助けとなると考えられている。本書では以下の4つの哲学的世界観について説明されている。

Table 1.1 Four Worldviews	
<b>Postpositivism</b>	<b>Constructivism</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Determination</li> <li>• Reductionism</li> <li>• Empirical observation and measurement</li> <li>• Theory verification</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Understanding</li> <li>• Multiple participant meanings</li> <li>• Social and historical construction</li> <li>• Theory generation</li> </ul>
<b>Advocacy/Participatory</b>	<b>Pragmatism</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Political</li> <li>• Empowerment Issue-oriented</li> <li>• Collaborative</li> <li>• Change-oriented</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Consequences of actions</li> <li>• Problem-centered</li> <li>• Pluralistic</li> <li>• Real-world practice oriented</li> </ul>

(adapted from Creswell, 2009, p.6)

- **ポスト実証主義的世界観 (The Postpositivist Worldview)**

量的調査法によく見られる哲学的仮説。知識は憶測的なものであるとし、原因が結果や効果を決定すると考える決定論哲学を内包している。実験を行っていく過程で、理論をひとつのもとにまとめていき(還元主義)、その理論が正しいかどうかを再び他の打破しうるデータで確認する。実験によるデータや証拠など合理的な思考が知識を形作るとし、客観的であることが重要とされる仮説である。
- **社会構成主義世界観 (The Social Constructivist Worldview)**

質的調査法によく見られる仮説。研究は実験参加者の視点を理解することに依存しており、参加者の視点を理解するにはそれまでの歴史や社会を切り離して考えることはできないとする。研究者は参加者の生活や他者との相互行為にも注目する必要がある。この主義はポスト実証主義のように理論から始まるのではなく、言葉や行動の意味から理論を生み出すものであるといえる。
- **代弁、参加型世界観 (The Advocacy and Participatory Worldview)**

この考え方はポスト実証主義に当てはまらなかった人々の問題から生まれた。しかし社会構成主義的考え方でも、主流から排斥された人々を助けるためのものとしては不十分であるとした。研究者は人々の代弁者であり、また人々の研究への参加もありとした。この考え方は質的、量的の両方の調査法で見られる考え方である。ここでは排斥される、権利を取り上げられるかもしれない我々の社会のなかの個人や集団に注目したものであり、そういった人々に焦点を当てた考え方である。
- **実用主義的世界観 (The Pragmatic Worldview)**

実用主義はポスト実証主義のように理論からではなく、状況と結果から考えるものである。この理論はどのように動くか、適用されるか、問題の解決ができるかというのが重要である。これはミックス法でよく用いられる考え方であり、研究者は一つの方法にこだわらず、研究のニーズや目的に沿って質的、量的調査法を駆使してよいとされている。

## ② 調査ストラテジーの選択

研究者は質的、量的、ミックス法のどれにそって研究を行うかを決めるだけでなく、調査方法も3つのうちどれを選ぶかを決める必要がある。調査ストラテジーを決めることで、研究デザインの中の手順の特定の方向性も決まってくる。

### ■ 量的研究のストラテジー

19世紀後半から20世紀を通して、ポスト実証主義を用いて提唱された。最近では多くの変数と処理を用いて、複雑な実験も行う。本書では以下の二点に注目している。

#### ● 調査研究

集団のサンプルを研究することで、集団の傾向や態度、意見の量的、あるいは数字による説明をもたらす。

#### ● 実験研究

特定の処理が結果に影響するかどうかを明らかにする。特定の処置を一つのグループに提供し、与えなかったグループと比較することで、どのように結果を与えたかを明らかにすることで、この影響を見極める。

### ■ 質的研究のストラテジー

1990年代から21世紀のなかで、質的調査方法のアプローチ数やタイプは増えている。完成された手順は特定の質的調査で利用される。

#### ● 民俗学・記述民俗学(Ethnography)

研究者は長い期間をかけて文化的集団の自然な状態を調査する。観察とインタビューでデータを集める。この研究は柔軟に、遭遇した状況に応じて連続的に進化する。

#### ● グラウンデッド・セオリー(Grounded theory)

研究者は参加者の視点に基づきプロセスや行動、相互行為の一般化された抽象的理論を得ようとする。ここではデータ収集とカテゴリーの作成、カテゴリーの相互関係を扱う必要がある。主な特徴として、カテゴリーごとのデータの比較と、情報の相違点と類似点を理論的サンプリングとして扱う点が挙げられる。

#### ● 事例研究(Case study)

研究者がプログラム、出来事、活動、一人以上の個人を深く研究するもの。事例は時間や活動と密接な関係にある。研究者は一定の期間内に様々なデータ収集手段を用いて詳細な情報を集める。

#### ● 現象学(Phenomenological)

研究者は現象に関わる生きた経験の本質を理解する。生きた経験を理解することに焦点を置いた現象学はとても哲学的なものである。

- 物語研究(Narrative Research)
  - 研究者が個人の生活について研究し、何名か個人について質問を行う。
  
- ミックス法のストラテジー
  - ミックス法は質的、量的調査法と比べると知名度は低い。すべての方法には限界があるとし、複数の方法を用いることで一つの方法にありがちな偏りを作らずにできるのではないかと研究者は考えている。
- 連続するミックス法
  - この方法は、研究者がもう一つの方法で一つの方法で明らかになった調査結果をより詳しく調べる、述べようとするもの。
- 並列するミックス法
  - この方法では、調査者は同時に質的、量的両方のデータを集めて、広範囲の分析を行うものである。
- 変化するミックス法
  - 量的、質的情報を含むデータを理論的なレンズ(詳細は Chapter3 で)によって観察するもの。

### ③ 研究方法

研究方法には研究のためのデータ収集、分析、解釈の形も含まれている。1.3 の表からわかるように方向づけられた本質により、方法やデータ収集は異なる。量的であれば、質問は計るものとして用いられ、質的のときは自由回答が使用される。ミックス法であれば、研究者は量的、質的両方の質問を行い、両方の観点から分析を行い、結論を出す。

Table 1.3 Quantitative, Mixed, and Qualitative Methods		
Quantitative Methods	Mixed Methods	Qualitative Methods
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Pre-determined</li> <li>• Instrument based questions</li> <li>• Performance data, attitude data, observational data, and census data</li> <li>• Statistical analysis</li> <li>• Statistical interpretation</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Both pre-determined and emerging methods</li> <li>• Both open- and closed-ended questions</li> <li>• Multiple forms of data drawing on all possibilities</li> <li>• Statistical and text analysis</li> <li>• Across databases interpretation</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Emerging methods</li> <li>• Open-ended questions</li> <li>• Interview data, observation data, document data, and audio-visual data</li> <li>• Text and image analysis</li> <li>• Themes, patterns interpretation</li> </ul>

(adapted from Creswell, 2009, p.15)

#### 4. 世界観、ストラテジー、方法論から見た実験デザイン

哲学的世界観、ストラテジー、方法は研究設計に大きく関わる。これらの3つの要素を統合することで、以下の例のように実験デザインが構築される。

- 量的なアプローチ

ポスト実証主義、調査の実験ストラテジー、判断を見極める前後のテスト

ポスト実証主義のように、仮説を支持するか、それを論破するためにデータを集め、理論をテストする。実験デザインは実験の前後に判断を見極めるために使われる。

- 質的なアプローチ

社会構成主義、民俗学・記述民俗学、行動の観察

研究者は参加者の立場に立って現象の意味を確立しようとする。民族誌学的方法としては、あるグループのある振る舞いを、時間をかけて観察するようなことが例として挙げられる。

- 質的なアプローチ

参加者主義、物語研究的研究デザイン、自由なインタビュー

研究者は個人の弾圧に関連した問題を調べ、集め、どのように抑圧されたかを理解するためインタビューを行う。

- ミックス的アプローチ

実用主義、連続的な質的、量的データの収集

質的、量的のそれぞれ異なったタイプのデータを集めることが量的、質的研究問題の理解のために必要である。

#### 5. 実験デザインを選ぶための基準

実験デザインを選ぶもう一つ上の要因として、研究問題、個人の経験、そして聴衆という要因がある。

- ① 研究問題

研究問題は対処しなくてはならない懸念要因である。特定の社会的研究問題のタイプには特定のアプローチ方法が必要とされる。これについては Chapter5 で詳細に説明される。

- ② 個人の経験

研究者の個人的な経験もどの実験デザインを選ぶか影響を及ぼす。研究者が量的な書物に慣れ親しみ、統計をよく扱った人ならば量的デザインを選ぶであろうし、個人へのインタビューをよく行う、または文字をよく扱う人ならば質的研究デザインを選ぶかもしれない。そしてミックス法を選ぶ人は、質的、量的デザインについてよく知っている人であるとされる。

③ 聴衆

最終的に、研究者は読み手に受け入れられるように研究を行なう。書き手は聴衆が支持、使ってくれるようなアプローチ方法を考える必要がある。質的、量的、ミックス法の聴衆の経験は、研究者がどれを選択するのかに影響することとなる。